

平成30年
第2回町議会定例会

行政報告

(平成30年6月7日)

幕別町長 飯田 晴義

平成30年第2回町議会定例会が開催されるに当たり、当面する町政の執行につきましてご報告をさせていただきます。

(名誉町民について)

はじめに、名誉町民について申し上げます。

名誉町民につきましては、幕別町名誉町民条例に基づき、永年本町に住所を有し、本町の公共の福祉の増進等に功績があり、深く町民から尊敬されている方を顕彰し、その功績と栄誉をたたえることを目的といたしまして、これまで特別名誉町民1名、名誉町民6名の方々にその称号をお贈りさせていただいているところであります。

この度、町内各層から前町長であります 岡田 和夫 氏 を名誉町民にとの声があり、私も同氏の多大な功績を考えると名誉町民に相応しい方であると考えますことから、名誉町民審査委員会を設置し、諮問をいたしたく、本定例会に関係予算を提案させていただいたところであります。

(幕別町内高等学校の再編整備について)

次に、幕別町内高等学校の再編整備について申し上げます。

これまで、北海道教育委員会に対し、町内の北海道幕別高校と多田学園江陵高校の再編統合について、新たな道立高校としての設置を要望してまいりましたが、昨年9月に公表されました北海道公立高等学校配置計画においては、「幕別高校の普通科2学級の増」とされ、新設校としての位置付けがされておりました。

その後、継続的に北海道教育委員会に対し、新設校としての位置付けがなされることなどを柱に要請活動を進めてきたところであり、本年3月には「幕別高校の間口増ではなく、両校の伝統を受け継ぐ新たな高校として正式に位置付け、多くの中学生に進学先として選択される、特色ある教育課程等を実現するとともに、町民に親しまれ、愛される高校になるように、学校名を新たにしていきたい」との要請書を提出したところであります。

こうした中、一昨日、北海道公立高等学校配置計画案が公表され、「平成31年度に、幕別町内において、私立江陵高校が募集停止となることや、地域の要望などを考慮し、幅広い教育課程の編成・実施を図る観点から、幕別高校を募集停止し、新設校を設置する。なお、新設校の募集学級数は3学級、学科は普通科とし、私立江陵高校の校舎を使用する」との配置計画案が示されました。

昨年4月に北海道教育委員会に対し、再編統合に係る要望書を提出して以来、町内経済界をはじめ、両校同窓会やPTAなど各種団体から要望書を提出していただいたほか、町議会からも意見書を提出していただくなど、まちを挙げての要請活動にご協力を賜りました皆様方に対しまして、改めてお礼を申し上げます。

町といたしましては、平成31年4月の新設校の開校に向け、幕別町の土壌・特性や両高校の伝統、特徴を生かした魅力ある学校となるよう、両校をはじめ、北海道教育委員会と協議を進めながら、できる限りの支援に努めてまいりたいと考えております。

(学齢期における発達支援について)

次に、学齢期における発達支援について申し上げます。

発達支援センターでは、発達支援システムに則り、支援を要する児童に対し早期発見・早期対応に努め、継続的な相談支援や発達支援を実施しているところでありますが、現状では、発達支援の対象は主に就学前の児童としております。

このため、学齢児童におきましては、保護者、学校からの相談業務を中心に、学校からの依頼による心理検査を実施しておりますが、本年5月から、発達支援センターに通所していた小学校1年生で、放課後等デイサービスなど他機関で発達支援を受けていない児童を対象として、小集団による支援や個別の支援を試行的に開始いたしました。

本年度は、小学1年生を対象に5月から12月までの8か月間を支援期間として試行的に実施することとし、その後、実施結果の検証と評価を行い、支援内容、プログ

ラム等を構築した上で、来年度からは対象児童を段階的に拡大し、一年を通じた支援を行うなど、発達支援体制の拡充を図ってまいりたいと考えております。

(農作物の作況について)

次に、農作物の作況について申し上げます。

本年は、冬の降雪量が多く、さらに、3月1日には帯広市で47cmの大雪があるなど、春作業の遅れが心配されましたが、4月中旬以降、安定した気候により晴れる日が続き、平均気温が平年より高く推移し、日照時間が多かったことから、春作業は例年より若干早めにスタートできたところです。

6月1日現在の農作物の生育状況につきましては、秋まき小麦は、草丈、茎数ともに平年より良好で、生育も3日早く進んでいるところです。

馬鈴薯は、平年より2日早く植付けを終え、生育も4日早く、移植てん菜につきましても平年より2日早く移植を終え、生育も3日早く進んでいるところです。

このほか、牧草やサイレージ用とうもろこし等も平年の草丈を大きく上回るなど、農作物全般が今のところ順調に生育しており、この先も天候に恵まれ、稔り豊かな秋が迎えられるよう、心から願っているところであります。

(町営牧場の入牧状況について)

次に、町営牧場の入牧状況について申し上げます。

忠類地区の晩成牧場及び共栄牧場につきましては、5月21日から6月2日までの期間において、乳牛460頭、肉用雌牛60頭を、南勢牧場につきましては、25日、28日、30日に乳牛305頭を、31日に馬4頭を受入れ、町営牧場全体では829頭の入牧を終えたところであります。

今後、さらに130頭の入牧が予定されており、全体としては、昨年の入牧頭数を若干下回りますが、事故などが起きないように、入牧牛の飼育管理に万全を期してまいります。

(チャレンジデー2018について)

次に、チャレンジデー2018について申し上げます。

本年で5回目の参加となりました、住民参加型のスポーツイベント「チャレンジデー」が、5月30日、秋田県仙北市を対戦相手に開催されました。

結果につきましては、本町(人口2万7,044人)の参加者数は1万6,086人、参加率59.5%と昨年の参加率51.1%に対し、8.4ポイント増と大きく伸びたところであります。

一方、対戦相手であります仙北市は、人口2万6,946人に対し、参加者数1万4,883人、参加率55.2%となり、本町が2度目の勝利を収めることができました。

戦いを終え、お互いの健闘をたたえるため、5月31日から昨日までの1週間、役場庁舎前掲揚塔に両市町の旗を掲揚したところであります。

本町では、4月中旬に「幕別町チャレンジデー実行委員会」を立ち上げ、実行委員を中心に積極的にPRしていただき、町内の体育団体や福祉団体をはじめ、事業所の皆さんなどのご協力のもと、1万6千人を超える方々に参加いただきましたことに對し感謝とお礼を申し上げます。

こうした取組などを契機といたしまして、健康づくりやスポーツに親しむ機運が、なお一層盛り上がることを期待しているところであります。

(住居手当の支給実態に関する調査について)

次に、住居手当の支給実態に関する調査についてであります。

この度、道内自治体において、住居手当を不正に受給していたとの報道を受け、本町といたしましても、住居手当を支給している職員の支給要件について確認調査を実施し、その調査結果がまとまりましたので報告させていただきます。

現在住居手当を支給している職員は、自己の所有に属する住宅に対する手当の支給者97人、住宅を借り受けている職員に対する手当の支給者82人の合計179人で

あります。

この度の調査により、住宅を借り受けている職員に対して支給している住居手当について、過大に支給していた実態が3件ありました。

内容といたしましては、住居手当支給申請後、家賃が下がったにもかかわらず従前の家賃額により受給を受けていたものが2件あり、いずれも、変更申請手続きを忘れたことによるものでありました。

また、自己の住宅を建築後変更届を提出することを忘れて、従前の借家に対する住居手当を受給していたものが1件ありました。

これら過大に支給していた住居手当の総額は8万1,600円であり、全額返済してもらうことといたしました。

これらは、職員の住居手当支給要件の認識不足とチェック体制の不備が招いた事案でありますことから、職員に対して制度の再度の周知を行うとともに支給者側のチェック体制を強化し、今後このようなことが起こらないよう緊張感を持って事務に当たってまいります。

以上、当面する諸課題等につきまして、ご報告をさせていただきましたが、議員の皆さんには、引き続き町政の執行に対しまして、一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます、行政報告とさせていただきます。